

INTRODUCTION

主演

監督・脚本

杉咲花 × 今泉力哉が贈る 考えすぎてしまう人のためのラブストーリー。

杉咲が演じるのは、土田文菜 27 歳。小説家としてこれまでに 2 冊の小説を出版し、現在 3 冊目を執筆中。執筆以外に、普段は古着屋でアルバイトをしている。現在、恋人はいるのだが、さまざまな過去の恋愛体験が影響して、いつからか“きちんと人を好きになること”“きちんと向き合うこと”を避けてしまっている。文菜はふと思う。「まっすぐ“好き”と言えたのはいつまでだろう?」今

の恋人と真剣に向き合うために、文菜はこれまでの恋愛を振り返っていく。文菜がこれまでに経験してきたさまざまな別れや叶わなかった恋などから、人を好きになることにどこか怖れを抱いていて、「大切な人とはつきあわないほうがいいのではないか?」「そもそも恋愛とはなんなのか?」などと逡巡しながらも前に進んでいくドラマだ。

主な登場人物（第 3 話）



土田文菜役
杉咲花



柴咲秀役
倉悠貴



土田拓也役
林裕太

小説家としてこれまでに 2 冊の小説を出版し、現在 3 冊目を執筆中。執筆以外に、普段は古着屋でアルバイトをしている。現在、恋人はいるのだが、さまざまな過去の恋愛体験が影響して、いつからか“きちんと人を好きになること”“きちんと向き合うこと”を避けてしまっている。

文菜の高校時代の恋人。文菜が東京の大学に進学を決めたことで、遠距離を理由に 2 人は別れてしまった。年末に文菜が帰省した際、再会を果たす。

文菜の弟。富山県にある文菜の実家で母と犬のナナと暮らしている。文菜の元彼・柴咲とは今もサッカーやフットサルをする仲。

キャスト
杉咲花

成田凌、岡山天音、水沢林太郎、野内まる、志田彩良
倉悠貴、柳俊太郎、細田佳央太、内堀太郎、林裕太、河井青葉、芹澤興人

スタッフ

脚本：今泉力哉 音楽：ゲイリー芦屋 監督：今泉力哉、山下敦弘、山田卓司 プロデューサー：大倉寛子、藤森真実、角田道明、山内遊
チーフプロデューサー：道坂忠久 制作協力：AX-ON、Lat-Lon 制作著作：日本テレビ



富山県ロケ地マップ



STORY

第3話は、富山県がロケ地。

年末。文菜（杉咲花）は富山の実家に帰り、高校時代の友人たちとチキン同窓会をしていた。そこに遅れてやってきた元カレの柴咲秀（倉悠貴）。久々に再会した柴咲は相変わらず魅力的だ。二次会のカラオケでは、二人が別れた理由で盛り上がる。遠距離にビビった柴咲は、文菜の上京をきっかけに、試しもせずに別れたのだ。今はそれぞれ恋人がいる。翌日、雨の中、父の墓参りをしていると、昨日会ったばかりの柴咲から「明日ちょっと会えないかな？」と電話がくる。



1 内川

シーン

文菜や柴咲が川沿いを歩くシーンを撮影



「中の橋」や「新西橋」で主に撮影。ノスタルジックな雰囲気漂う港町で人気のロケ地。温かい明かりが川面を照らすナイトシーンも見どころ。

3 富山駅

シーン

文菜を弟・拓也が車で迎えに来るシーンを撮影



北口駅前広場にて撮影。新幹線や在来線、路面電車が発着する富山の玄関口で、富山駅をバックに路面電車も映り込んでいる。

2 和合苑

シーン

文菜がお墓参りをするシーンを撮影

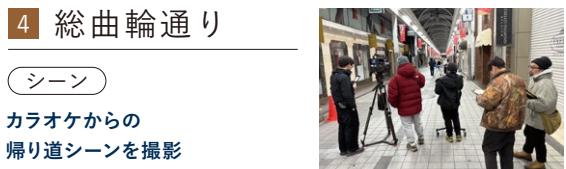


富山市四方にある民営墓地で、お墓や東屋をお借りして撮影。撮影当日の天候により、傘やカッパを用意して雨が降る中での撮影となった。

4 総曲輪通り

シーン

カラオケからの帰り道シーンを撮影



富山市中心市街地のアーケード商店街で撮影。12月の寒い夜にエキストラの皆さんにもご協力いただきながら撮影が行われた。



5 カラオケ飛行船

シーン

みんなで訪れたカラオケシーンを撮影



富山市山室にある老舗カラオケ店。ドリンクバー無料や持ち込みOKで老若男女を問わず地元の人から愛されている。

番外編

ご協力いただいた撮影スポット

シーン 文菜が住む実家として撮影



私有地への無断立ち入りはご遠慮ください。ロケ地へ訪れる際は、騒音やゴミのポイ捨てなどがないように、マナーに十分ご留意ください。